

【記入例】

(様式1)

履 歴 書				
フリガナ	タバナ タロウ	性別	男	写真を貼付のこと 最近3カ月以内に撮影 タテ4cm×ヨコ3cm
氏名	橘 太郎			
生年月日(年齢)	昭和〇〇年〇月〇日(満〇歳)			
現住所	〒607-8175 京都府京都市山科区大宅山田町34番地			
	電話 △△△ (△△△) △△△△			

◎現住所は住民票記載のとおりに入力してください。

◎西暦は使いません。元号で入力してください。

連絡先：携帯番号		赴任可能な年度	年度
Eメールアドレス		(または年月日)	(年 月 日)

学 歴	
年 月	事 項
昭和〇〇年 3月	△△△高等学校卒業
昭和〇〇年 3月	☆☆学園大学文学部教育学科教育学専攻卒業(教育学士)
昭和〇〇年 3月	高等学校教諭2級普通免許[英語](京都府教委：昭和△△高2普第××号)
昭和〇〇年 3月	中学校教諭1級普通免許[英語](京都府教委：昭和△△中1普第××号)
平成〇〇年 〇月	☆☆学園大学大学院教育学研究科学校教育学専攻修士課程入学
平成〇〇年 〇月	☆☆学園大学大学院教育学研究科学校教育学専攻修士課程修了(教育学修士)
平成〇〇年 〇月	☆☆学園大学大学院学校教育学専攻博士(後期)課程入学
平成〇〇年 〇月	☆☆学園大学大学院学校教育学専攻博士(後期)課程単位取得後退学
平成〇〇年 〇月	博士(文学)の学位取得(☆☆学園大学：論文博第〇〇号)

◎高等学校卒業時より記入してください。大学での学部・学科の名称は正確に記入してください。

◎免許の状況(登録番号等)についても正確に記入してください。

◎学位の名称については、授与された当時の名称を正確に記入してください。

◎博士号の取得者は具体的に記入してください。

◎外国の大学等の経歴を記載する場合は、大学等の名称や学位等はアルファベットと片仮名を併記し、国名を必ず記載してください。

職 歴	
年 月	事 項
昭和〇〇年 〇月	××学園中学・高等学校非常勤講師(英語担当)(昭和〇〇年3月まで)
昭和〇〇年 〇月	××学園中学・高等学校教諭(英語担当)(昭和〇〇年3月まで)
昭和〇〇年 〇月	アメリカ合衆国〇〇大学留学(平成〇年〇月まで)
平成 〇年 〇月	△△大学××学部××学科兼任講師(英語科教育法担当)(平成〇〇年〇月まで)
平成〇〇年 〇月	△△大学〇〇学部××学科の設置認可申請に伴い教員組織審査を受ける (△△大学××学部××学科兼任講師、「英語科教育法」担当・専任・講師)
平成〇〇年 〇月	△△大学××学部××学科専任講師(英語科教育法担当)(平成〇年3月まで)
平成〇〇年 4月	◇◇◇大学文学部准教授(英語科教育法、英米文学演習担当)(平成〇年3月まで)
平成〇〇年 4月	◇◇◇大学外国語研究センター所長(平〇〇年3月まで)
平成〇〇年 4月	◇◇◇大学文学部教授(英語科教育法、英米文学演習)(現在に至る)
平成〇〇年 〇月	◇◇◇大学大学院文学研究科教育学専攻修士課程設置認可申請に伴い教員組織審査を受ける

平成〇〇年 〇月	(◇◇◇大学文学部教授、「英語文学特論」「特別研究」担当・専任・M□)
平成〇〇年 〇月	◇◇◇大学学生部長(平成〇〇年〇月まで)
平成〇〇年 〇月	◇◇◇大学大学院文学研究科修士課程教授(英語文学特論、特別研究担当)(現在に至る)
平成〇〇年 〇月	◇◇◇大学大学院文学研究科教育学専攻博士(後期)課程変更認可申請に伴い教員組織審査を受ける (◇◇◇大学文学部教授、「言語文化特論」担当・専任・D可)
平成〇〇年 〇月	□□大学文学部兼任講師(英語講読担当)(現在に至る)
平成〇〇年 〇月	◇◇◇大学大学院文学研究科博士(後期)課程教授(言語文化特講担当)(現在に至る)

◎学歴と職歴をあわせて空白期間が生じないように記入してください。

◎職歴に関し、職名、地位等についても明記してください。

◎教育歴に関し、兼任講師(非常期講師)も含めて記入してください。

◎教育歴については、担当授業科目名を記入してください。

◎文部科学省の教員組織審査(略称:教員審査)の経験がある方は、具体的に記入してください。

(審査に関わる大学名、審査の年月、職名及び担当授業科目名(判定結果を含む)を記入してください。)

◎大学における役職名(学長・研究科長・学科長・部長以上)も記入してください。

学会及び社会における活動等	
年 月	事 項
昭和〇〇年 〇月	日本〇〇学会会員(現在に至る)
昭和〇〇年 〇月	日本□□学会(現在に至る:平成〇〇年〇月から現在に至るまで理事)
平成〇〇年 〇月	日本カリキュラム学会(現在に至る)
平成〇〇年 〇月	全国〇〇協議会会員(平成10年3月まで)

◎機関の始まりと終わりを必ず明記してください。*学会の入会時点と、役員就任の両方にわたっての記入が必要です。

◎社会における活動は専攻・研究分野の関連した事項についてのみ記入してください。

賞 罰	
年 月	事 項
平成〇〇年 〇月	日本〇〇学会××賞受賞 「×△△×の研究」(単独) 罰なし

◎受賞歴があれば具体的に記入してください。

◎名称、年月、単独・共同の別等

勤務先	職名	学部等又は所属部局の名称	勤務状況
◇◇◇大学	教授	文学部	英語科教育法、英米文学演習
◇◇◇大学大学院	教授	文学研究科教育学専攻	修士課程：英語文学特論、特別研究 博士(後期)課程：言語文化特講
□□大学	兼任講師	文学部	英語講読
平成 年 月 日			上記のとおり相違ありません。
氏名			印

◎「職名」については、大学等の教員の場合は「教授」「准教授」等の職位を記入してください。それ以外の職に従事している場合は、「取締役」「理事」等の職名を記入してください

◎勤務状況については、大学等の教員の場合は、担当授業科目を記入してください。それ以外の職に従事されている場合は、職務の内容を簡潔に記入してください。

【記入例】

(様式2)

教育研究業績書		
平成 年 月 日		
氏 名		
印		
教育上の能力に関する事項	年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例 1) 「英語科教育法」	平成〇〇年〇月～ 平成〇〇年〇月	英語科教育法の授業においては、「英語教師の授業づくり意識」に注目し、授業ビデオの分析、模擬授業とその批評を組み合わせて授業を行っている。

◎授業外における学習を促進する取り組み、授業内容のインターネット上での公開等

2 作成した教科書、教材 1) 『現代カリキュラム事典』	平成〇〇年〇月	学生の学習用レファレンスとして、『現代カリキュラム事典』（ぎょうせい、共著）の英語教育関係項目と国際理解教育関係項目を執筆した。
---------------------------------	---------	--

◎授業や研修指導等で教科書として使用している著書、教材等

3 実務の経験を有する者についての特記事項 1) 英語科教育法の質的向上	平成〇〇年〇月	民間等との共同研究を受託し、産学協同研究を実施してきた。共同研究内容は、英語科教育法の質的向上をめざす教育システムの開発に関するものである。
2) 教育実習生の受け入れ指導	平成〇〇年〇月	

◎大学から受け入れた実習生等に対する指導歴等

◎大学の公開講座や社会教育講座における講師、シンポジウムにおける講演等

◎その他、所属機関や関係機関等において行った講義、講習、職員・関係者等に対する指導、海外等における留学、調査研究経験等を広く記入湯してください。

4 その他		
-------	--	--

◎大学教育改善に関する団体等での活動の概要を記入してください。

◎教育実績に対する受賞等をご記入ください。

※全項目において、上記にとらわれず、積極的記入してください。

職務上の実績に関する事項	年月日	概要
1 資格, 免許 (例) 中学校教諭1級普通免許[英語] 高等学校教諭2級普通免許 [英語]	昭和●年●月●日 昭和●年●月●日	京都府教委：昭和△△中1 普第××号 京都府教委：昭和△△高2 普第××号

◎担当授業科目の教育内容等に関連した資格、免許について記入してください。

2 特許等		
-------	--	--

◎担当授業科目の教育内容等に関連した特許、実用新案等について記入してください。

3 実務の経験を有する者についての特記事項 1) 英語科教員のための講習会	平成○○年○月	○○主催（又は○○県、○○協会共催）：全国の英語科教員○名を対象に、「英語教授法」と「英語教育の理論と実践」について論じた。
--	---------	--

◎「職歴」に記入した事項を中心に、担当する授業科目に対応した下記の事項等を参考に記入してください。

- ①職務の内容（どのような職務について、どのような役割を果たしたか）
- ②従事した期間
- ③成果、結果等

◎研究会・ワークショップ等での報告や症例発表等

4 その他		
-------	--	--

※その他1から3に該当するもの以外の事項について幅広くご記入ください。

※全項目において、上記にとらわれず、積極的記入してください。

著書, 学術論文等の名称	単・共著の別	発行又は発表の年月日	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1. 教師 2. 世界の教育課程改革― 3. △△英語教授法の理論と実践	共著 単著 共著	平成〇年〇月 平成〇年〇月 平成〇月〇日	△△書店 ××出版 ×〇△社	<p>教育△△研究会を中心とする共同研究の一部。本巻は教師の職能の理論研究と比較研究、さらに教師の教育観と授業構造との関係の分析を行う。授業の事実に立脚した教育改革に教師がどのように関与できるかを検討した。[執筆章]授業に新しい風を pp. 〇〇-〇〇 [執筆者]橋太郎, 橋華子, 〇〇〇, 他8名</p> <p>今日の世界の教育課程改革について、特に初等教育に焦点を当てて、その特徴を分析した。教科の編成原理、ナショナル・カリキュラムの導入の状況、総合学習の展開方法などを分析し、日本のカリキュラム改革の基礎資料を提供しようと試みた。本書では、先進資本主義国の中で、統合化という初等教育課程改革に共通する特徴があることを明らかにした。</p> <p>××が開発した△△について、言語学と教育方法学の知見を活用し、分析したものの。19××年代以降の△△英語教授法の実践の総括を行うと同時に、この教授法に対して認知××論的意味づけを行った。[執筆章]△△の授業記録と指導技術―一般動詞を教える pp. 110-119 [執筆者]橋太郎, 橋華子, 〇〇〇, 他10名</p>
(学術論文) 1. 英語教育についての研究ノート―言語・メタファー・言語教育(査読付) 2. 入門期英語教育における論点―教材構成・授業構成に関して	単著 共著	平成〇年〇月 平成〇年〇月	教育学××研究第〇巻 第1号 pp. 8-12 教育××研究第〇集 pp. 1-6	<p>英語教育の内容と教材にどのようにメタファーを導入すべきかを論じたもの。リチャーズの比喩論を手がかりに、身体語彙を基礎とするメタファーの教材化がその後の英語学習、ひいては言語学習に有効であることを理論的に明らかにした。</p> <p>体育科の教材構成論に学びながら、入門期英語教育の教材構成・授業構成の基本的観点を明らかにしたもの。ダイクシス(照応)の原理を入門期に導入することで、学習者の主体的な英語による発話を組織できることを述べた。共同研究・共同執筆のため、本人担当部分の抽出は不可能。[執筆章]橋太郎, 橋花子, 〇〇〇, 他2名</p>

著書、学術論文等の名称	単・共著の別	発行又は発表の年月日	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(翻訳) 1. ××△△著 『動詞革命－新しい英文法へのアプローチ－Michael Lewis』	共訳	平成○年○月	××書店	英文法の中でもっとも学習者を悩ませる内容のひとつである動詞について、一般的説明原理を確立しようとしたもの。現在形とか過去形といった従来より広く用いられてきたカテゴリー・システムを廃し、視点、回顧、遠隔といった話者の立場を強調する新しいカテゴリーを提起した。[翻訳章]第○章 pp. 225-301 [監訳者]×川△男 [翻訳者]○○○, 橘太郎, 橘華子
(その他) [学会発表] 1. 授業研究における理論の有効性とは何か [講演] 1. 21世紀の学校と英語教育 [執筆物] 1. 『追求の××』を育てる英語科の授業	共同 単独 単著	平成○年○月 平成○年○月 平成○年○月	日本教育方法学会第○回大会(東京) △△英語×法研究会 東日本支部 ×月例会(東京) 教育××号 pp. 5-10	授業研究における理論の有効性についていくつかの原理的観点を提出した。たとえば「有効な理論とは、概念システムと事実との対応関係が透明で、誰にでも理解可能な構成を持ったものである。」あるいは「有効な理論とは、学習者における学習の成立、不成立を説明しうるものである。」このような原理的観点について発表した。[共同研究者]橘華子, ○○×× 現在の英語授業の問題点を指摘し、中学校と高校のそれぞれの段階において、どのような授業を目指すべきか問題提起した。近い将来に、生徒たちが実際に使いこなせて、すなわち自己主張と議論の役に立つツールとなり得るような英語、しかも量的にコンパクトな英語教育内容を開発すべきことを主張した。特に中学校では基礎語彙の使い方を教えることに力点を置き、高校では、表現から議論へと発展するカリキュラムを構築すべきであることを論じた。 △△××氏の英語科教育実践の特徴を分析したもの。特に、小学校低学年と中学年において、△△氏が精力的に取り組んでいた英語科授業づくりを「探究」という概念をキー・ワードにして分析しようと試みた。

著書，学術論文等の名称	単・共著の別	発行又は発表の年月日	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
2. 外国語教育	共著	平成〇年〇月	日本の外国語教育	〇〇年度の教育研究全国集会外国語分科会の議論をまとめ、外国語教育のあるべき方向と、実践の指針を提起したもの。英語教育のカリキュラム上の位置づけを再確認するとともに、教育内容、教材についての根底的なとらえ直しをすることを問題提起した。[執筆章]外国語教育の現状とあり方 pp. 75-78 [執筆者]橋太郎，橋華子，〇〇〇，他10名
[書評] 1. ×××著 『〇〇〇・イングリッシュ再考』	単著	平成〇年〇月	△△教育 〇月号	×××氏の〇〇〇〇・イングリッシュ論を教育方法的見地から書評したもの。この著作が〇〇〇・イングリッシュへの公正かつ客観的なアプローチをとっており、科学的検証に耐えるものであること、またこれまでの〇〇〇・イングリッシュ批判にゆきとどいた解答をあたえていることを指摘した。

◎著書については、書名を記入してください。

◎学術論文については、学術雑誌、学会機関誌、研究報告、紀要等に学術論文として発表したものの題名を記入してください。

(学術論文についてはその旨を明記してください。)

◎その他については、総説、学会抄録、依頼原稿等に当たっては当該記事のタイトルを、報告発表、座談会、討論会に当たっては当該テーマを記入してください。

◎「発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称」の項について

*著書については発行所を記入。

*学術論文については、発表雑誌等の名称、巻・号、掲載ページ等を明記してください。

*報告発表等の場合には、学会大会名、開催場所等を明記してください。

◎「単著・共著」項には、当該著書等に記載された著作者が単独である場合には「単著」、著作者が複数いる場合には、監修、編集、編著、共著、部分執筆に関わり方によらず「共著」と記入してください。

◎「概要」の項について

*当該著書等の概要を200字程度で記入してください。

*当該著書が共著の場合には、本人の担当部分の章、節、題名、掲載ページを記入するとともに、本人を含め、著作者全員の氏名(多数にわたる場合は主要な共著者の氏名)を当該著書等に記載された順に記入してください。

*本人の担当部分の抽出に困難がある場合は、その理由を記入してください。(共同研究・共同執筆のため本人の担当部分の抽出は不可能。)